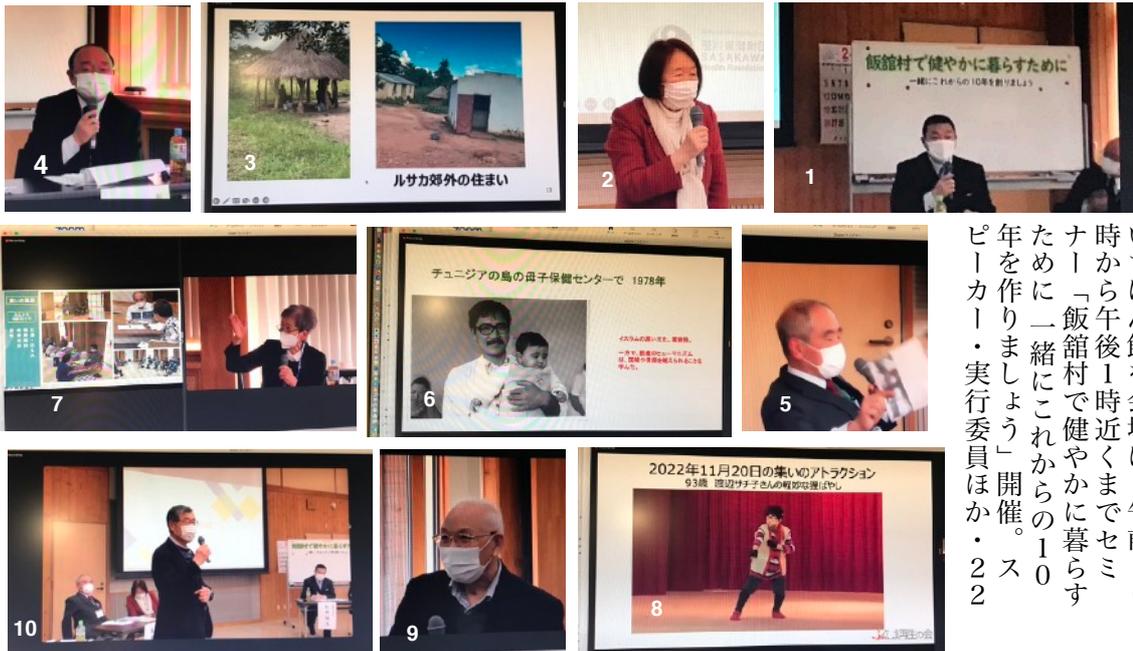


ふくしま 再生 短信

2023 / 2 / 2 4 健やかな暮らしセミナーオンライン取材

飯舘村で健やかに暮らすために



2023年2月24日、飯舘村いちばん館を会場に、午前10時から午後1時近くまでセミナー「飯舘村で健やかに暮らすために一緒にこれからの10年を作りましょう」開催。スピーカー・実行委員ほか・22

名、村民会場参加47名、オンライン参加38名、合計107名参加。司会はセミナー実行委員会世話人・ふくしま再生の会の田尾陽一さん(写真10)。記者はオンライン取材実施。

当日報告のメインスピーカーは、飯舘村村長・杉岡誠さん、公益財団法人笹川保健財団会長・喜多悦子さん。

安心できる暮らしを支える立場からの報告は、飯舘村健康福祉課長・石井秀徳さん、飯舘村嘱託医・本田徹さん、認定NPO法人ふくしま再生の会理事・臨床心理士・中町美佐子さん。

村長・杉岡さんは歳入歳出の数字をあげ村の舵取りの苦労をにじませ健やかに暮らす村づくりを訴えた(写真1)。

笹川保健財団・喜多さんは深い人間関係を育むことが人の幸せの基本であるとアフリカのザンビアの農村風景などを紹介しながら語りかけた(写真2、3)。

健康福祉課長・石井さんは、統合診療所「飯舘クリニック」、訪問看護ステーション「あがべこ」、そして長田整骨院が医療機関として日々村民を支えていることなどを紹介(写真4)。

本田さんは、「地域に出なさい、農民のもとに行きなさい」という佐久病院のアウト・リーチ活動を原点としてチュニジアなどの医療ヒューマニズムの尊さを訴えた(写真5、6)。

ふくしま再生の会・中町美佐さんは、健康医療ケアチームリーダーの体験を踏まえ、2013年に始まる「までい再生ネット」から現在の「健康いちばん」に到る活動を紹介、似顔絵描き、93歳渡辺サチ子さんの勇姿!など人情味溢れる報告が続いた(写真7、8)。

小休止の後質疑に入り、菅野永徳さん(写真9)はじめ、三瓶政美さん、小林美恵子さん、星野勝弥さん、松原光年さん、菅野茂さん、長田卓也さん、ほかの発言が相次いだ。まことに八地に足のついた人びとVの集いであった。

世話人・田尾さんの呼びかけで既に第2回セミナーに向けての準備活動が始まっている(4月10日現在)。

(文責&画面撮影・若林一平)

会場記録映像公開中 youtube.com

「飯舘村で健やかに暮らすために」(飯舘村いちばん館)。再生の会カメラマン・石川哲さんの撮影・編集。↑ここをクリック(タイトルで検索できます・QRコードもどうぞ利用してください!)



ふくしま

再生 短信

ライブカメラが伝える 2023初夏の飯館



マキバノハナゾノ

小宮のカタクリ

1



2023-06-03(土) 15:04:14

2023-06-03 15:03:28



4

佐須カメラ2

コチカメラならぬミゾカメこと、東大大学院農学生命科学研究所・溝口勝教授が各地に設置しているファイルドモニタリングシステムの映像を紹介する。大久保金一さんのツアーで有名なカタクリの可憐な姿(写真1、2・4月8日)。松塚の土壌博物館夜景(写真3・6月3日)。田植えを終えたばかりの菅野宗夫さんの酒米田圃全景(写真4・6月3日)。(撮影・溝口勝さん、文責・若林一平)



3



「2・24飯館村で健やかに暮らすために」ダイジェスト版完成
再生の会カメラマン・石川哲さんの撮影・編集。

ふくしま

再生 短信

2014 - 2018 < 霊山センター > の日々

感謝 そして 希望



2023年6月、田尾さんから一報あり。再生の会がお借りしていた通称「霊山センター」の建物

群が撤去されるとのこと。2014年にタイムスリップ、広大な敷地に溪流あり森あり、宿泊・食

事施設完備・談論風発の夕餉のひととき、村民のみなさんとの集い、そしてあるときは村民との協働による土壌測定バイアル詰め作業、それは「桃源郷」そのものでした(写真1、2、3、4、5、6)。

正門の表札「小児慢性疾患療育研究所」・「霊山トレーニングセンター診療所」のすぐ傍に立つ「開所記念之碑」から。

「慢性小児疾患療育研究所 霊山トレーニングセンター」は慢性疾患をもつ小児が自分で病気をコントロールし病気と共に生きて行くためのセルフケアおよびホームケアを教育するための施設として斯界で始めて設立されたものである。

昭和56年7月26日 昭山56年7月26日 センター所長 丸山 博

顧問 小泉 春雄

発端は、2014年7月17日、施設の主人・NPO 法人小児慢性疾患療育会、理事長・丸山博先生を田尾さんが訪問し施設の借用を申し入れ即快諾されたのです。

こうして誠に理想的な「公共空間(田尾さん)



よる)が実現したので。霊山で育まれた再生のDNAは2019年の風と土の家(写真7)、2022年の図画倉庫(スットソーコ)(写真8)の誕生へと継承されてゆきます。

2023年2月、霊山で日々お世話になった菅野佳子さん、同月いちばん身近なところで応援をいただいていた菅野榮子さんの訃報が伝えられました、ただただ感謝あるのみ。 合掌

(写真1、2、3、4、5、6は田尾陽一さん提供、写真7、8と文責は若林一平)

再生 短信

2023/8/18~20 日本橋いいたて村フェア訪問記

いいたて村が日本橋に！

2023年8月18日〜20日、日本橋ふくしま館・Midette(ミッドエッテ)で「いいたて村フェア」が開催された。会場では、飯館野菜・スイーツ・飯館のお酒、飯館の花「飯館ブーケ」の展示即売が行われた(写真1、2)。記者のイチオシは「里山の黒真珠・なつはぜゼリー」、超絶品まさに高級レストランのデザートメニューの趣き、記者の自家製カスピ海ヨーグ

ルトをトッピングしてみた(写真3)。合同会社・ニコニコ菅野農園の一品。

さて今回のフェアには特別の「出し物」が登場。飯館村佐須の「気まぐれ茶屋ちえこ(代表者・佐々木千榮子さん)」が出店。「きまぐれ定食」は20日昼食限定。館内の厨房では千榮子さん・かおりさん親娘がフル回転(写真4、中央千榮子さん、左が娘のかおりさん)。「ちえこ茶屋」は飯館村の合併のはなしがなくなり独立の村として残ることが決まった平

成16年(2004年)に自分として「残したいものがある」と決意して開店。初めに取り組んだのがどぶろく、特区認定を受け、どぶちえ「白狼」誕生。この日「純米大吟醸飯館」「純米酒復興」と並び3種飲み比べ(写真5、左から飯館、復興、白狼)。お目当の「気まぐれ定食」、おこわ、しみ餅、味噌じゃが、ずんだナスに特級の梅漬けが嬉しい(写真6)。千榮子さん「飯館のいいところ、自然に食べ物にやっぱり人間性」(写真7)。心にしみるひとことでした。

(文責&撮影・若林一平)



気まぐれ茶屋ちえこの
気まぐれ定食



ふくしま 再生 短信

試験栽培からの十二年を思う

お米収穫 手刈り・はせ掛け・脱穀

2023年11月2日、佐須の菅野宗夫さんから同報メールで嬉しい知らせ。宗夫さんの厚意により収穫の一部を伝統的作業で実施したのだ。「小原さま、先日は手刈り稲刈り、そして足踏み脱穀お疲れ様でした。自然



の恵みをいっぱい受けた、はせ(ぎ)掛けの稲は旨さを増してきたためか獣達も一部を横取り食していたように



すが、無事脱穀出来たことに一安心でしたね。稲摺りに関しましては一任させていただき嬉しい限りでしたが、4日に合わせての協力者を探すのには一苦労でした。しかし、その人が見つかり今日2時から実施出来たことは、ひとえに協力していただいた方に感謝でしかありませんし、大切にしていかなないといけないなあそんな気持ちです。(後



お世話になったみなさん：5月の田植えには、東大大学院農学生命科学研究科・溝口研究室と東大むら塾の皆さんが参加。秋のはせ掛け・脱穀には、健康医療ケアの松田さん・アートによる村興しの矢野さん、里山再生・ワイン用ブドウ栽培・モニタリングの北原・高木・小原の面々、稲摺りの後の精米は田尾さんと矢野さん、東京でも、サークルまでのメンバーが稲摺り・精米をしました。また健康医療ケアチームは出来たお米をおにぎりにして、健康がいちばんの集いで村のお年寄りの皆さんに食べてもらいました。

盛夏へ、長い草取り作業が続く(写真3)。10月、防獣ネットで守られた黄金色の美田が現れる(写真4)。はせ掛け(写真5)に脱穀(写真6)にみなさん大活躍。ここでひとりの恩人を挙げたい。2012年に始まる試験栽培が農政の厚い壁にあたり行き詰まっていたとき田尾さんが出会った、三輪睿太郎(みわえいた

略)。米作りは半年間の真剣勝負。代掻き(しろかき)の基本作業(写真1)を終え田植えで美田スタート(写真2)。5月の初夏から



ぼくたちは見た

2023年12月3日、飯館村交流ふれあい館で古居みずえ監督「ぼくたちは見た」の上映会が行われ、村内外から70人近い人びとが集まり映画を鑑賞しました。飯館クリニック本田徹医師の発案で飯館村とも縁が深く、「飯館村の母ちゃんたち」などの秀作を発表してきた、フォトジャーナリストの古居さんが、長年にわたるパレスチナ取材から、あるガザの一家の子どもたちの眼から見た、封鎖と占領の中で営まれる難民の生活を描いたすくた作品。主催・認定NPO法人ふくしま再生の会協賛訪問看護ステーションあがべご、長田整骨院、いいいたてクリニック。

(報告・田尾陽一さん)



ろう、元農水省技術会議会長・独立行政法人農業技術研究機構理事長・他歴任)さん。試験栽培は三輪さんの言う「農研機構との共同研究」の形で実現した。まことに味わい深い須米(写真7)をいただいたからあらためてご恩を想起したものである。(写真提供・菅野宗夫さん、文責・若林一平)